

ほうほう
こんな方法で

コミュニケーションがしやすくなります！

広汎性発達障がいのある人が、「自分から」「必要なことを」「場に応じて」伝えられるようなサポートは大切です。ことばをあまり話さない人でも、ことば以外の伝えやすい手段がみつければ、自分から伝えることができます。よく話す人でも、ことばだけよりも、見て理解したり考えたりするほうが得意なので、絵・写真・文字・図などを使うと、お互いに考えていることがわかりやすいでしょう。

嫌なことをされた時や断りたい時に、拒否がうまく伝えられないことがあります。「絵や文字が書かれたカード」を使うと、相手に伝えやすくなったり、相手にも理解してもらいやすくなったりします。

しゃべりかけないでください
やめてください
いいえ

したいことや欲しいものがうまく伝えられなかったり選べなかったりすることがあります。「絵や写真などのわかりやすい方法」で選択肢を示してもらえると、選びやすくなります。

なにを たべる？
どこに行く？

スーパー
プール
ボーリング

言いたいことや困っていることを、うまく伝えられないことがあります。「ヒントになるカード」があれば、どう伝えたらいいのか気づきやすくなったり、相手に伝えやすくなったりします。

わかりません。教えてください
できました！
トイレにいきます

5. むかつく
4. いろいろ
3. ほっ
2. うきうき
1. やったー

どんなきもち？

きもちの状態が自分で気づきにくかったり、相手にうまく伝えられなかったりすることがあります。絵を使って話を聞くと、その時の気持ちを気づけたり、その絵を使って自分から相手に伝えやすくなったりします。

しさがみえなくてがっこいい！
シャツやパンツがみえてはすかしい〜！

基本的なルールやマナーが身につけていなかったり、指摘されても気づかない場合があります。絵や文章で伝えてもらうと、『どうすればよいか』『どうしたらよくないか』がわかりやすくなります。また、場面を想定して実際に練習してみると、わかりやすくなることもあります。

おわんをもってたべる
つくえにひじをついてたべる

※ここで紹介しているのは一例です。